

科学研究費助成事業(科学研究費補助金)研究成果報告書

平成25年3月31日現在

機関番号: 15301

研究種目:基盤研究(A) 研究期間:2009 ~ 2012

課題番号:21249053

研究課題名(和文) 糖尿病性腎症治療ターゲットとしての核内受容体の研究

研究課題名 (英文) Nuclear receptors as therapeutic targets for diabetic nephropathy.

研究代表者

槇野 博史(MAKINO HIROFUMI)

岡山大学・大学院医歯薬学総合研究科・教授

研究者番号:50165685

研究成果の概要(和文): 糖尿病性腎症の病態の初期には細胞肥大が重要であり、その後慢性炎症が糖尿病性腎症の進展を促進させている。核内受容体の modulator はこれらの病態を総合的に改善する薬剤の候補である。Peroxisome proliferator-activated receptor (PPAR)-8アゴニストおよびLiver X receptor (LXR)アゴニストは抗炎症作用によって治療効果を発揮し、Retinoid X receptor (RXR)アンタゴニストは主として細胞周期の異常を是正して細胞肥大を抑制することが判明した。核内受容体の modulator は糖尿病性腎症に有効であると考えられる。

研究成果の概要(英文): In the development of diabetic nephropathy, the hypertrophy of renal cells is important for the initial disease process and chronic inflammation further promotes the progression of the disease. Modulator for nuclear receptors may improve these pathological processes. Peroxisome proliferator-activated receptor (PPAR)-δ and Liver X receptor (LXR) agonists exerted therapeutic potential by improving inflammation. Retinoid X receptor (RXR) antagonist demonstrated therapeutic potential by correcting cell-cycle abnormalities and cellular hypertrophy. Modulators for nuclear receptors are beneficial for the treatment of diabetic nephropathy.

交付決定額

(金額単位:円)

			(35 H2/ 1 137 • 1 4)
	直接経費	間接経費	合 計
2009 年度	10, 600, 000	3, 180, 000	13, 780, 000
2010 年度	9, 500, 000	2, 850, 000	12, 350, 000
2011 年度	9, 500, 000	2, 850, 000	12, 350, 000
2012 年度	5, 400, 000	1, 620, 000	7, 020, 000
総計	35, 000, 000	10, 500, 000	45, 500, 000

研究分野:医歯薬学

科研費の分科・細目:内科系臨床医学・腎臓内科学

キーワード:核内受容体、糖尿病性腎症、レチノイド、細胞周期、糸球体上皮細胞、PPAR、RXR、LXR

1. 研究開始当初の背景

生活習慣の変化により糖尿病患者は増加の一途をたどっている。その結果、糖尿病性腎症により透析導入となる患者も年々増加しており、原疾患の第1位である。しかも糖尿病性腎症を

原疾患として透析導入となった場合、心・脳血管障害等のマクロアンギオパチーや感染症のため予後は不良である。糖尿病性腎症の進展予防のために、厳格な血糖コントロール、厳格な血圧コントロール、renin-angiotensin system (RAS)抑

制薬の投与、脂質異常症の是正、食塩制限と低たんぱく食などを組み合わせた集約的治療が推奨され、ある程度のエビデンスが集積しているものの、糖尿病性腎症の増加を阻止するに至っていない。

ヒトゲノム上には48種類の核内受容体が同定 され、そのなかでも peroxisome proliferatoractivated receptors (PPARs)、レチノイド X 受容体 (RXR)、レチノイン酸受容体(RAR)、Liver X 受 容体(LXR)、ファルネソイド X 受容体(FXR)は、 ある種の脂肪酸、ハイドロキシコレステロール、 胆汁酸などの内因性リガンドの存在が判明して いる。さらにこれらの核内受容体の薬理学的な アゴニストやアンタゴニストは、メタボリックシンド ロームや2型糖尿病に認められるエネルギー代 謝・糖代謝・脂質代謝異常を是正することが判 明している。PPARy アゴニストであるチアゾリジン 誘導体は糖尿病治療薬として、PPARa アゴニス トであるフィブラートは高脂血症治療薬として臨 床の場で使用されている。糖尿病性腎症に対し ては、チアゾリジン誘導体やフィブラートの腎保 護効果が動物実験レベルで報告される一方、前 者は遠位ネフロンへの作用による水分貯留、後 者は腎不全患者における腎機能悪化によって その使用が制限されている。

2. 研究の目的

核内受容体をターゲットとした糖尿病・メタボリックシンドローム治療は、これから重要性が益々高まると考えられるが、核内受容体のmodulationによる糖尿病性腎症への治療効果とその作用機構については不明な点が多く残されている。そこで本研究においては核内受容体(PPARô, RXR, LXR)に対するアゴニストやアンタゴニストといった modulator の糖尿病性腎症に対する治療効果を検討しその分子機構を明らかにすることとした。

3. 研究の方法

1型糖尿病のモデルである8週齢の C57BL/6Jマウスを用いて、ストレプトゾトシンを投与して糖尿病を誘発し、コントロール群、糖尿病群に加えて核内受容体 modulatorを投与して、8週間後にその糖尿病性腎症に対する治療効果を検討した。PPAR&アゴニスト(GW0742)投与群、LXR アゴニストであるT0901317 投与群について検討した。

さらに肥満と2型糖尿病の動物モデルであ る OLETF ラットを、コントロール群、PPARy アゴニストである pioglitazone (PIO) 投与群、 RXR アンタゴニストである HX531 投与群に 分けて糖・脂質代謝および糸球体病変を比較 した。また、高糖濃度下で培養メサンギウム 細胞に PIO、HX531 を添加して、Laser scan cytometer により細胞周期を解析し、CKI やこ れを制御する Mitogen-activated protein kinase (MAPK)の発現をウエスタンブロットで定量 した。さらに LETO 群、OLETF コントロール 群、PIO 群、HX531 投与群の脂肪組織から成 熟脂肪細胞を分離して細胞周期を解析し、培 養脂肪細胞に PIO、HX531 を添加して CKI や MAPK などの発現についてウエスタンブ ロットで検討し、メサンギウム細胞の結果と 比較した。

4. 研究成果

(1) PPAR&アゴニスト(GW0742)の治療効果 核内受容体 PPAR&アゴニスト(GW0742)の 糖尿病性腎症への治療効果を検討した。 C57BL/6 マウス(雄、8 週齢)を①非糖尿病群 (以下 C 群)、②非糖尿病+GW0742 投与群、 ③糖尿病群(以下 D 群)、④糖尿病+GW0742 投与群(以下 G 群)の4 群に振り分け、糖尿病 誘発後に GW0742 を8 週間経口投与した (1mg/kg/日)。GW0742 の投与により、体重、 血圧、HbA1c に有意差を認めなかったが、糖 尿病誘発8週の時点でG群マウスはD群マウ スと比較し尿中アルブミン(μg/day)の有意な 減少をみとめた。腎臓組織の観察ではD群マウスにみられるメサンギウム基質の面積率 (Mesangial matrix index; MMI) (%)の増加が GW0742 投与により抑制され、IV型コラーゲンの発現増加も抑制された。さらに糸状体内マクロファージの浸潤(個/糸状体)も抑制された。また炎症性サイトカインの遺伝子発現の検討では、腎臓において MCP-1、CD14 のmRNA の発現が減少していた。PPARをアゴニストは糖尿病性腎症において炎症を抑制することで、腎症を改善させることが示唆された。

(2) LXRアゴニストT0901317 の治療効果

LXR アゴニスト投与群において血糖低下効 果は認められなかったが、尿中アルブミンを 有意に減少させた。組織学的検討では、糸球 体肥大を抑制し、メサンギウム基質の増加も 有意に抑制した。さらに尿細管間質における 線維化も著明に抑制された。糸球体内の F4/80 陽性マクロファージの浸潤も有意に抑 制された。オステオポンチの腎組織の mRNA 発現は LXR アゴニストの投与によって抑制 され、さらにウエスタンブロットでもその蛋 白発現の減少が確認された。また免疫組織化 学では尿細管間質にオステオポンチンの発 現が確認され、LXR アゴニストにより抑制さ れていた。オステオポンチン遺伝子の-76 に は AP-1 結合配列が存在し、近位尿細管細胞 である mProx24 細胞で検討したところその 転写活性はルシフェラーゼアッセイによっ て確認された。さらにクロマチン免疫沈降法 によっても AP-1 の結合が確認された。これ らの転写活性は高糖培養下で上昇し、LXRア ゴニスト添加によって抑制された。

(3) <u>RXRアンタゴニスト(HX531) の治療効果</u> OLETF ラットを 8 週齢から 30 週齢にわた

って観察したところ、PIO 投与群では OLETF 群と比較して著明な体重増加を認めたが、 HX531 投与群では体重増加が抑制されてい た。PIO、HX531 投与群の両群で、血糖値や HbA1c、血清中性脂肪・コレステロール値は OLETF 群に比べて改善し、尿中アルブミン量 の減少と、組織学的には糸球体肥大の改善を 認めた。高糖培養下のメサンギウム細胞で認 められる G1 期細胞周期停止は、PIO、HX531 添加により解除された。また高糖培養下では、 CKI の発現を制御している p44/42 MAPK、 p38MAPK のリン酸化が亢進し、p21Cip1, p27Kip1 の発現が亢進していたが、PIO や HX531 の添加により、G1 期細胞周期停止に 関与するこれらの蛋白発現は両薬剤で同様 に抑制された。一方、PIO 投与 OLETF ラッ トの成熟内臓脂肪細胞では M+late M 期の細 胞の比率が高いのに比して、HX531 投与群で は GO+G1 期の細胞が増加しており、培養内 臓脂肪細胞に PIO や HX531 を添加すると、 前者が分化を促進するのに対して、後者は分 化を抑制し、更に CKI や MAPK の発現が両 薬剤では異なっていた。糖尿病性腎症におけ るメサンギウム細胞および肥満における内 臓脂肪細胞の細胞周期異常を明らかにし、そ の異常は核内受容体 RXR アンタゴニストに よって制御されることを示した。細胞種やそ の状態により、核内受容体 modulator は複雑 に作用するが、細胞周期異常の是正が、肥満 の改善と蛋白尿や糸球体硬化の抑制をもた らすことが期待される。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に は下線)

[雑誌論文] (計 20 件)

① Kurose Y, <u>Wada J</u>, Kanzaki M, Teshigawara S, Nakatsuka A, Murakami K, Inoue K, Terami T, Katayama A, Watanabe M,

- Higushi C, Eguchi J, Miyatake N, <u>Makino</u> <u>H</u>. Serum galectin-9 levels are elevated in the patients with type 2 diabetes and chronic kidney disease. *BMC Nephrol* 14, 23, 2013 (查読有)
- ② Nakatsuka A, <u>Wada J</u>, Iseda I, Teshigawara S, Higashio K, Murakami K, Kanzaki M, Inoue K, Terami T, Katayama A, Hida K, Eguchi J, Ogawa D, Matsuki Y, Hiramatsu R, Tagita H, Kakuta S, Iwakura Y, <u>Makino H</u>. Vaspin inhibits apoptosis of endothelial cells as a ligand for cell-surface GRP78/VDAC complex. *Circ Res* 112(5), 771-780, 2013 (查読有)
- ③ Sato-Horiguchi C, <u>Ogawa D</u>, <u>Wada J</u>, Tachibana H, Kodera R, Eguchi J, Nakatsuka A, Terami N, Shikata K, <u>Makino H</u>. Telmisartan attenuates diabetic nephropathy by suppressing ixidative stress in db/db mice. *Nephron Exp Nephrol* 121(3-4), e97-e108, 2013 (査読有)
- ④ Murakami K, Wada J, Ogawa D, Horiguchi CS, Miyoshi T, Sasaki M, Uchida HA, Nakamura Y, Makino H. The effects of telmisartan treatment on the abdominal fat depot in patients with metabolic syndrome and essential hypertension: Abdominal fat Depot Intervention Program of Okayama (ADIPO). *Diab Vasc Dis Res* 10(1), 93-96, 2013 (査読有)
- ⑤ Inoue J, Wada J, Teshigawara S, Hida K, Nakatsuka A, Takatori U, Kojo S, Akagi S, Nakao K, Miyatake N, McDonald JF, Makino H. The serum vaspin levels are reduced in Japanese chronic hemodialysis patients. *BMC Nephrol* 13(1), 163, 2012 (查読有)
- 6 Tachibana H, Ogawa D, Matsushita Y,

- Bruemmer D, <u>Wada J</u>, Teshigawara S, Eguchi J, Sato-Horiguchi C, Uchida HA, Shikata K, <u>Makino H</u>. Activation of liver x receptor inhibits osteopontin and ameliorates diabetic nephropathy. *J Am Soc Nephrol* 23(11), 1835-1846, 2012 (查読有)
- ① Nakatsuka A, Wada J, Iseda I, Teshigawara S, Higashio K, Murakami K, Kanzaki M, Inoue K, Terami T, Katayama A, Hida K, Eguchi J, Horiguchi CS, Ogawa D, Matsuki Y, Hiramatsu R, Yagita H, Kakuta S, Iwakura Y, Makino H. Vaspin is an adipokine ameliorating ER stress in obesity as a ligand for cell-surface GRP78/MTJ-1 complex. *Diabetes* 61(11), 2823-2832, 2012 (查読有)
- 8 Kanzaki M, <u>Wada J</u>, Kikumoto Y, Akagi S, Nakao K, Sugiyama H, <u>Makino H</u>. The therapeutic potential of synthetic human atrial natriuretic peptide in nephrotic syndrome: a randomized controlled trial. *Int J Nephrol Renovasc Dis* 5, 91-96, 2012 (查 読有)
- Kawai D, Takaki A, Nakatsuka A, Wada J,
 Tamaki N, Yasunaka T, Koike K, Tsuzaki R,
 Matsumoto K, Miyake Y, Shiraha H, Morita
 M, Makino H, Yamamoto K. Hydrogen-rich
 water prevents progression of non-alcoholic
 steatohepatitis and accompanying
 hepatocarcinogenesis in mice. Hepatology
 56(3), 912-921, 2012 (査読有)
- Teshigawara S, <u>Wada J</u>, Hida K, Nakatsuka A, Eguchi J, Murakami K, Kanzaki M, Inoe K, Terami T, Katayama A, Iseda I, Matsushita Y, Miyatake N, McDonald JF, Hotta K, <u>Makino H</u>. Serum vaspin concentrations are closely related to insulin resistance and rs77060950 at SERPINA12

- genetically defines distinct group with higher serum levels in Japanese population.

 J Clin Endocrinol Metab 97(7), E1202-1207, 2012 (査読有)
- ① Kanzaki M, <u>Wada J</u>, Sugiyama K, Nakatsuka A, Teshigawara S, Murakami K, Inoue K, Terami T, Katayama A, Eguchi J, Akiba H, Yagita H, <u>Makino H</u>. Galectin-9 and T cell immunoglobulin mucin-3 pathway is a therapeutic target for type 1 diabetes. *Endocrinology* 153(2), 612-620, 2012 (查読有)
- ID Hida K, Poulsen P, Teshigawara S, Nilsson E, Friedrichsen M, Ribel-Madsen R, Grunnet L, Lund SS, Wada J, Vaag A. Impact of circulating vaspin levels on metabolic variables in elderly twins.

 Diabetologia 55(2), 530-532, 2012 (查読有)
- ① Nakatsuka A, <u>Wada J</u>, Hida K, Hida A, Eguchi J, Teshigawara S, Murakami K, Kanzaki M, Inoue K, Terami T, Katayama A, <u>Ogawa D</u>, Kagechika H, <u>Makino H</u>. RXR antagonism induces G0/G1 cell cycle arrest and ameliorates obesity by up-regulating the p53-p21^{Cip1} pathway in adipocytes. *J Pathol* 226(5), 784-795, 2012 (查読有)
- ① Ogawa D, Asanuma M, Miyazaki I, Tachibana H, Wada J, Sogawa N, Sugaya T, Kitamura S, Maeshima Y, Shikata K, Makino H. High glucose increases metallothionein expression in renal proximal tubular epithelial cells. Exp Diabetes Res 2011:534872, 2011 (查読有)
- Takatori Y, Akagi S, Sugiyama H, Inoue J, Kojo S, Morinaga H, Nakao K, <u>Wada J, Makino H</u>. Icodextrin increases technique

- survival rate in peritoneal dialysis patients with diabetic nephropathy by improving body fluid management: a randomized controlled trial. *Clin J Am Soc Nephrol* 6(6), 1337-1344, 2011 (査読有)
- Matsushita Y, <u>Ogawa D</u>, <u>Wada J</u>, Yamamoto N, Shikata K, Sato C, Tachibana H, Toyota N, <u>Makino H</u>. Activation of Peroxisome Proliferator-Activated Receptor δ Inhibits Streptozotocin-Induced Diabetic Nephropathy Through Anti-Inflammatory Mechanisms in Mice. *Diabetes* 60(3): 960-968, 2011 (查読有)
- ② Sato C, Shikata K, Hirota D, Sasaki M, Nishishita S, Miyamoto S, Kodera R, Ogawa D, Tone A, Kataoka HU, Wada J, Kajitani N, Makino H. P-selectin glycoprotein ligand-1 deficiency is protective against obesity-related insulin resistance. *Diabetes* 60(1):189-99, 2011 (查 読有)
- (18) Zhang Q, Shi Y, Wada J, Malakauskas SM, Liu M, Ren Y, Du C, Duan H, Li Y, Li Y, Zhang Y: In vivo delivery of gremlin siRNA plasmid reveals therapeutic potential against diabetic nephropathy by recovering bone morphogenetic protein-7. PLoS ONE 5(7), e11709, 2010 (査読有)
- Nakao A, Nakao K, Takatori Y, Kojo S, Inoue J, Akagi S, Sugiyama H, <u>Wada J</u>, <u>Makino H</u>: Effects of icodextrin peritoneal dialysis solution on the peritoneal membrane in the STZ-induced diabetic rat model with partial nephrectomy. *Nephrol Dial Transplant* 25(5), 1479-1488, 2010 (查 読有)
- Sarai K, Shikata K, Shikata Y, Omori K, Watanabe N, Sasaki M, Nishishita S, Wada

<u>J</u>, Goda N, Kataoka N, <u>Makino H</u>: Endothelial barrier protection by FTY720 under hyperglycemic condition: involvement of focal adhesion kinase, small GTPases, and adherens junction proteins. *Am J Physiol Cell Physiol* 297(4):C945-54, 2009 (査読有)

[学会発表] (計4件)

- Makino H: Renin angiotensin system inhibition in diabetic nephropathy. ASN Kidney Week 2012, Nov 2 2012, San Diego, CA, USA
- ② Makino H: Basic mechanism underlying diabetic nephropathy and CKD. World Congress of Nephrology, Apr 11 2011, Vancouver, Canada
- ③ <u>槇野博史</u>:全身を制御する腎臓-33年の 腎臓研究を顧みて-、2010年6月17日、 神戸市
- Makino H: Thiazolidinediones and diabetic nephropathy. World Congress of Nephrology, May 22 2009, Milan, Italy

[図書] (計2件)

- 1 <u>槇野博史</u>編、南山堂、糖尿病×CKD診療 ガイド、2012、197ページ
- ② <u>槇野博史</u>編、南山堂、CKDのサイエンス - 基礎と臨床-、2010、230ページ
- 6. 研究組織
- (1)研究代表者

槇野 博史(MAKINO HIROFUMI)

岡山大学・大学院医歯薬学総合研究科・ 教授

研究者番号:50165685

(2)研究分担者

和田 淳 (WADA JUN)

岡山大学·大学院医歯薬学総合研究科· 准教授

研究者番号: 30294408

(3)連携研究者

小川大輔 (OGAWA DAISUKE)

岡山大学·大学院医歯薬学総合研究科· 准教授

研究者番号: 70535195